臺灣日日新報
本日四頁

死歿者論功行賞

大東亞戰　支那事變　陸軍關係

優賞輝く三千六百二十六勇士

金鵄拜受者九百八十八名

【東京電話】大東亞戰爭第二周年を目前に我が精鋭なる陸軍部隊は遠くニューギニアに或はビルマの第一線に敢鬪しつつあるが[illegible]十七日大東亞戰爭及び支那事變に參加、戰死を遂げた陸軍將兵に[illegible]

[illegible]

功五級金鵄勳章を拜受した勇士は井上[illegible]中佐以下九百八十八名で[illegible]

珠勳甲（大東亞戰爭關係のみ）

[illegible]

敵に悟られぬ機智かに

[illegible]

敵のそれは狂暴な敵の

[illegible]

敵陣捉亂の甚だ第一回

[illegible]

何を意味する言葉であつたか

[illegible]

杉浦三省に泣く

[illegible]

『杉浦突撃隊阿修羅の奮戰』

寡勢敵中突撃九回

密林に敵兵を捕捉殲滅

【南太平洋〇〇基地にて佐藤、御園、山田、川井、隅田同盟特派員發】わが突撃隊長杉浦中尉、決死突撃のムンダ戰線にその名を輝かして[illegible]

無名高地—杉浦峯—奪取の決戰

[illegible]

割腹・自ら敵彈摘出

壯烈・杉浦勇中尉の最期

第四回目は十六日杉浦中尉以下十一名出撃目的[illegible]

機械化部隊である事

[illegible]

壯絶杉浦隊長の最期

[illegible]

最後の一彈迄何んで敵兵を

[illegible]

還らぬ僚機待つ戰友

戰勝に冷酒乾す搭乘員

【東京電話】南太平洋〇〇方面基地（甲）海軍報道班員發＝八方に捲げた紫電の[illegible]

安否

[illegible]

一面

[illegible]

沈み

[illegible]

訓練

[illegible]

紫電一閃六隻轟擊沈

【東京電話】南太平洋〇〇基地にて矢嶋海軍報道班員發＝[illegible]

雲高

[illegible]

海面

[illegible]

火炎

[illegible]

敵艦

[illegible]

共產軍を捕捉包圍

南支方面　日華協同作戰の妙發揮

【南支〇〇前線十九日塚中特派員發】[illegible]

產業設備營團

首腦部陣更迭

【東京電話】[illegible]

內務辭令

【東京電話】

[illegible]

海軍司政官發令

【東京電話】二十日

[illegible]

人事

▲矢野諄三氏[illegible]

▲小倉正恒氏[illegible]

▲井上正男氏[illegible]

けふの官報

[illegible]

ぜんそくの苦しみを救へ
專門藥頓服で効く
發作の時、咳嗽の時
用心の爲、一よく
喘息豫防
ひろ喘息藥
各藥店にあり
東京市下谷區[illegible]

食慾增進
消化促進
南方特産！パパインV製劑
カネボウ
消化胃健錠
[illegible]
東京市品川區大井[illegible]
[illegible]研究所

THE THERAPOL

化膿症
淋・慢性・急性
淋人科
化膿
感冒
扁桃腺
中耳炎
化膿創
丹毒
蓄膿症
◎内服により、深く病竈に透徹し……
◎化膿菌・淋菌・流行性感冒菌に對する強き抗菌力を發現し
◎病原菌の發育を阻止して症狀の惡化を防ぎつゝ、最も短時日に快癒せしむる［第一製藥］の最高純度スルフォンアミド剤
◎その優秀なる品質は、醫界の信頼を博するところ……
（六錠・二〇錠・一〇〇錠）
第一製藥株式會社
テラポール錠

學童の體力を創る
ビタミンAD
糖衣
理研ビタミン
[illegible]
製造元
理研[illegible]株式會社
發賣元
玉置商店

消化とビタミン補給に
エビオゲン錠
[illegible]
東京本所・ライオン歯磨株式會社

ムシ歯豫防に
ライオン歯磨
[illegible]

決戰十二月號
婦人倶樂部
戰爭の決をとるもの　大本營陸軍報道部　秋山陸軍中佐
空襲下の北千島に働く婦人の座談會
御製に拜す臣民の道
防寒更生編物
戰時更生洋裁講座
空襲時子供老人病人妊婦對策
[illegible]
大日本雄辯會講談社

土に生きる母は強し
夫と死別十八年、女手で育て二人は戰死二人は空へ兵四人の母
大東亞戰爭地圖
[illegible]

社説　物價政策運營方針に就て

[illegible]

農業團體　財産の處分抑制　統合に先立つ臨時措置

[illegible]

物價協議會（假稱）新設　一貫的に物價政策運用

[illegible]

市街地信組貯金高

臺北	[illegible]	[illegible]
新竹	[illegible]	[illegible]
臺中	[illegible]	[illegible]
臺南	[illegible]	[illegible]
高雄	[illegible]	[illegible]
花蓮港	[illegible]	[illegible]

米糖の價格連鎖斷つ　スライディングスケール制度　明年期以降廢止

[illegible]

行政運營の決戰化　大藏省關係法律案要綱

[illegible]

一、會計法戰時特例の改正

[illegible]

二、國有財産法中改正法律案要綱

[illegible]

三、國債關係事務簡捷化に關する法律案要綱

[illegible]

四、所得税法及地租法改正法律案要綱

[illegible]

五、帝國鐵道會計法律案要綱

[illegible]

殖産局長上京

[illegible]

合同鳳梨總會　小濱專務等辭任

[illegible]

日華同盟成立祝賀　廣東民衆大會　秋風爽な中山堂に擧行

[illegible]

岩井産業、本島で生産部門にも活躍

[illegible]

産組聯合　支部事務打合會　飛行機獻納其他を審議

[illegible]

動力漁業を振興　福田臺中州産業部長談

[illegible]

決戰　鷄と飼料

[illegible]

共榮圈だより　△バリ島の夜の市

[illegible]

秋の田園診療譜　現地報告　待ち焦る〝淺い雨〟　旱魃に挑む逞しき鬪ひ

△臺南州の巻

[illegible]

草の根で

[illegible]

東石郡下

[illegible]

特殊區域

[illegible]

下淡水溪

[illegible]

甘蔗作

[illegible]

三十一號

[illegible]

天然堰堤

[illegible]

耕作資金

[illegible]

市況（二十日）

兜町前場況

[illegible]

東京長期前場

[illegible]

東京銀行實株

[illegible]

東京國債前場

[illegible]

東京長期總取組

[illegible]

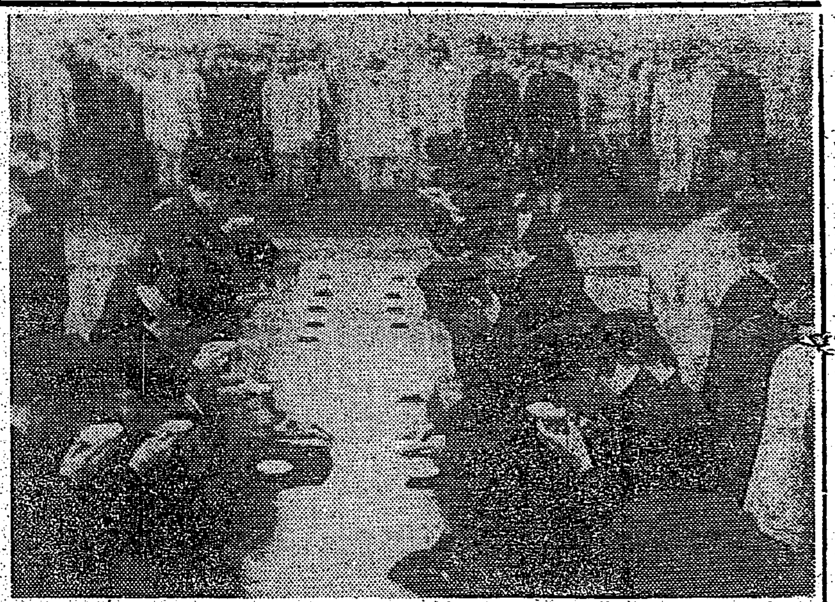
スルフォンアミド劑
静脈注射液の嚆矢!!
静脈用
ポンジール
注射液
[illegible]

完全消化
胃腸整調
榮養充實
食欲不振
消化不良
發育障碍
錠劑　バンドマン
（A.M）

アイデアル化粧品
美肌で
明るく
朗らかう
[illegible]

ぜんそく根切り薬
無料進呈
藥王園
[illegible]

時局に恥ぢぬ
健康化粧に!
資生堂七色粉白粉
[illegible]



御楯われ、今ぞいでたつ

大號令の下 意氣軒昂

壮んなるかな 臺大學徒"壮行の式典"

學徒出陣の秋到る——過ぐる數日來[illegible]の如き静寂と森山の如き不動の中にただ默々とひたむきな[illegible]に臨んだのも此の日此の秋あるを期したからだつた、今こそ此の教育の精華を生かして米英撃てとの大號令の下、學業を抛うちペンを捨て大君の御楯と散らば何ぞ此の身は如何になるとも又敢へて何を悔いんと今ぞ帝國の學徒は銃を執り刀を帯いて晴れの第一線出動の日を待ち侘びてゐるが、此壯大の召され征く過慶な學徒壯行の式典は秋色漸く濃なる廿日の午後一時から、今征で立つ學徒等が多年武を練り技を鍛つた同學内の運動場にて安藤總長臨席の下に厳粛に擧行された【寫眞上は壯行の式、下は總長の訓示】

定刻早くも式場に整列した送る[illegible]徒五百餘名に送られる出陣學徒〇〇名に迎へられて安藤總長は雄々しくも赤襷をかけた學徒の雄姿に感激の眼ざしを送りつつ式壇上定の位置に着き

式典 は先づ國民儀禮に初まり次で國歌の奉唱あり終つて總長はしづしづと壇上に登り[illegible]く詔書の大部を奉讀すれば[illegible]として聲なく、感動の中に米英撃たずんば已まずの烈々たる氣魄が場内を壓した、それより臺灣神社の御神符を出陣學徒に授與し[illegible]學科の各代表に訓與し、[illegible]の武運を祈り[illegible]つつ神酒の盃を取り、終つて總長の[illegible]

[illegible]を送れば[illegible]代表[illegible]郎君は起つて

宣戰の大詔を奉戴してより早や一年に垂んとし[illegible]米英は人的、物的資源を恃み[illegible]反抗を企圖してゐる、此の秋に當り

我等 皇國に生を享け[illegible]志願動たる我等學徒に米英[illegible]の第一線に征けとの大號令が下されたのである、皇國の興廢を決するは[illegible]、我等學徒の双肩に在りその責務[illegible]且つ大である、されど技術にその技術未だ十分ならざるを以て再度命に依り[illegible]に在つて技術の修得に努むる事になつた、併乍ら我等も赤誠用さられたる學徒であり又軍人たる學徒であり、我等は[illegible]一題たる

科學 學を受け持つべく[illegible]されたのであり、今學徒等と共に起つ能はずも、又近き日必ず[illegible]の後を追ひ、[illegible]出動する決意を有してゐる、米英の[illegible]するものぞ、日出づる國の學徒に及向ふ敵はあらじ、[illegible]が仇[illegible]

[illegible]必ず、七生報國の[illegible]もつて[illegible]となり[illegible]を期して[illegible]に出動する時、[illegible]の安きに在り

我等 も亦必ず諸兄の名を恥しめず千萬人と雖も我征かんの氣概をもつて諸兄の心を心として[illegible]の訓練、[illegible]の鍛錬に努め、[illegible]も赤誠[illegible]米英[illegible]に誓ふものである、希くば兄等は元氣にて、[illegible]の威風を世界に示されよ[illegible]と第一線を[illegible]して征で行く友に心からなる壯行の辭を述べた、之に[illegible]出陣代表[illegible]田中[illegible]は[illegible]しめる[illegible]も嚴しく[illegible]り學究の如き、出陣學徒の火と燃える

純忠 の[illegible]をなし最後に[illegible]の旗にて[illegible]の萬歳を[illegible]し同二時四十五分[illegible]る者、送られる者、只その決意を[illegible]んの一念に結ばれて此の輝かしき壯行の式典を終つた

征け、報國の丹心もて

残る第二陣は研鑽を餞とせよ

諄々、安藤總長の訓示

本日此處に壯士一度び出でて再び還らざるの覺悟も雄々しき諸君の出陣を送る式典を擧行するは國家のために洵に御同慶に堪へない[illegible]米英の[illegible]以來[illegible]なる[illegible]に[illegible]も拘らず[illegible]我が本土を[illegible]なんとし[illegible]の[illegible]度を加へ來たつた、此の秋に當り[illegible]る[illegible]を持つた

諸君 は幸ひにも今召されて[illegible]の光榮の日を與へられたのである、[illegible]水にも火にも我[illegible]の傳統の日本魂を發揮して[illegible]必殺の[illegible]に征け、[illegible]諸君の本懐を遂げよ、諸君が[illegible]米英を[illegible]し[illegible]祖先の[illegible]を[illegible]し以て家門の名譽をあげるは今を措いて何れの日か又あらんと[illegible]

本日此處に我[illegible]北帝國[illegible]は君の御[illegible]たる光榮を擔ひ國家の干城たる[illegible]を[illegible]新たに入隊若しくは入營せられる學生生徒諸君のために[illegible]行の式を擧げ

報國の丹心 赫々として[illegible]の如く[illegible]壯士一度び去つて[illegible]らざるの[illegible]も[illegible]を[illegible]らんとするのである、今や大東亞戰爭は[illegible]化し[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]を示してゐる[illegible]兵[illegible]士の[illegible]力[illegible]つて[illegible]以來[illegible]の[illegible]あがり大東亞の[illegible]は各々その所を得[illegible]の[illegible]に[illegible]して居り[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]化に[illegible]に不可能を可能として[illegible]の[illegible]を[illegible]の大[illegible]を[illegible]しめるのである、併乍ら[illegible]

[illegible]を[illegible]に[illegible]さんとする[illegible]なる[illegible]の[illegible]は日々その[illegible]を増して[illegible]にその[illegible]を[illegible]たないのみならず[illegible]本土を[illegible]つて[illegible]の[illegible]を示しつつある、此の[illegible]下に[illegible]て[illegible]も國民は

盡忠報國 の[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]く[illegible]下「火にも水にもわれ[illegible]なくに」の[illegible]を[illegible]する[illegible]は[illegible]も[illegible]、此の秋に[illegible]り諸君は召されて兵となり出でては[illegible]する[illegible]を[illegible]たのである、[illegible]今[illegible]の[illegible]は國家の[illegible]にとしての諸君に[illegible]つあ[illegible]の大なる[illegible]を如實に示したものである、[illegible]の此の[illegible]を諸君のために[illegible]上の光榮として[illegible]すると共に諸君が[illegible]國家[illegible]に[illegible]するのであるを[illegible]

[illegible]を[illegible]する、かの北[illegible]あれば[illegible]に[illegible]し一死[illegible]るの[illegible]が我が國民の[illegible]に於て「[illegible]王土に[illegible]」と[illegible]まれて忠を[illegible]命を[illegible]つるは人臣の道なり」と云つて居るが[illegible]ては文臣たり出でては武將として君側に侍して[illegible]の大臣に心をいたし

天下の重寄 として[illegible]を[illegible]に[illegible]一家一門をあげて[illegible]の[illegible]を[illegible]た此の[illegible]の[illegible]は[illegible]に[illegible]の[illegible]みあり[illegible]ものである、[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]なる[illegible]をつかむ[illegible]の[illegible]を[illegible]のである[illegible]行かにも[illegible]である、諸君は[illegible]を[illegible]を[illegible]つた、一旦[illegible]

[illegible]あれば[illegible]に[illegible]し一死[illegible]の[illegible]が我が國民の

傳統的信條 である[illegible]は諸君の[illegible]する所である[illegible]の血管を流れる[illegible]以來の[illegible]は代々を[illegible]その[illegible]の[illegible]ひ來たつた此の[illegible]は平時に[illegible]ては[illegible]なる[illegible]の如く[illegible]山の如くであるが[illegible]と[illegible]えては[illegible]をも[illegible]くものである、今やその[illegible]ゆべき秋、[illegible]すべき秋が[illegible]した宣戰の大詔を拜したその瞬間に我が一億國民は[illegible]して[illegible]し[illegible]國を[illegible]ろにした米英に[illegible]し[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]を[illegible]めたのである[illegible]日を[illegible]に[illegible]んで[illegible]人[illegible]の[illegible]ないのである

論功行賞の恩命

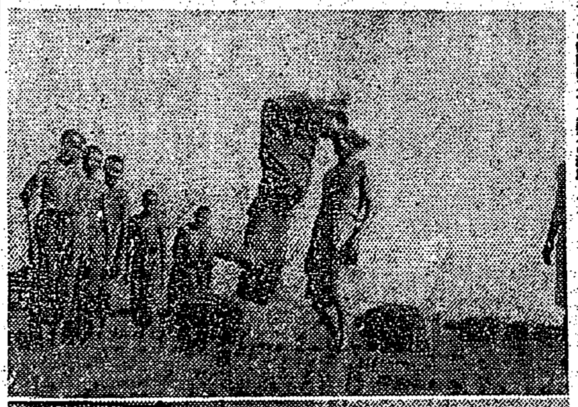
本島同胞二氏の光榮

【東京廿日發】大東亞戰爭陸軍戰死者第十二回論功行賞の氏名が發表された、臺灣關係者は次の二名である

△戰死（旭八）濱島林（臺南州曾文郡下營庄）

△戰死（旭八）蔡新發（臺南市[illegible]町）

右の内旭八の光榮に浴した濱島林君は昨年七月比島作戰に[illegible]特別志願兵ペドロの指揮する〇〇名の[illegible]を受け自ら[illegible]を執つて[illegible]これを[illegible]した[illegible]の極めて[illegible]なる戰死を遂げたものである



海軍特別訓練隊

殊勳を繼ぐ—山の若人

祖國の急に 起かん とする[illegible]の[illegible]として押ふる能はざる[illegible]は[illegible]に[illegible]を[illegible]る[illegible]は同等の幸か特に選ばれて[illegible]の一郎として[illegible]せられ男子一代の面目であり[illegible]

血は滾つてる

征く命の續く限り

座談會

壯烈な特別訓練に鍛へる不撓不屈の精神、敢闘の高砂義勇隊に續く〇〇蕃地特別訓練隊〇〇名の高砂青年は、部隊長指揮の下、血のにじむ訓練を積んで出陣の日に備へてゐるが、〇〇月の訓練で隊員の意氣はいよいよ逞しく、[illegible]された闘魂は火と燃えてゐる、去る十八日[illegible]局長、[illegible]長、大山蕃務課長はこれら隊員を激勵すべく〇〇[illegible]を訪れたが、その日兵舎の一室では大山蕃務課長を圍む座談會が開かれた

【大山事務官】本日われわれは諸君の猛訓練振りに接し、全く頭の下がる思ひがした、諸君の國はたくましく鍛へ上げられて實に立派だ、[illegible]もきびきびしてゐて僅か〇月足らずの訓練でこれだけ[illegible]くなるものかと驚いた次第である、諸君の先輩たる高砂義勇隊の第一線に於ける敢闘は、今や日本中知れ渡つてゐる、諸君もやがて第一線に出る時が來たら、鍛へに鍛へたその體と精神とをもつて先輩に劣らぬ武勳をたて、[illegible]を[illegible]的に[illegible]ちのめしていただきたい、われわれが[illegible]にさきがけて[illegible]につ いた諸君に期待するものは多いのである、それでは先づ[illegible]この部隊に入つた諸君の決意を[illegible]お聞きしたい

【植田勇（臺中州）】[illegible]の[illegible]に[illegible]られて[illegible]を出た自分たちは、一身を大君のために捧げ、米英[illegible]のために「[illegible]かばみづくかばね、山行かば草むすかばね」の決意をもつてこの[illegible]部隊に入隊したのである、第一線に出たら大いに[illegible]の[illegible]を示したい

【加藤直一（臺中州）】[illegible]に死すとも悔いずの覺悟を持つて、一[illegible]にやつて來た[illegible]がこんな[illegible]になることが出來たのは、正しい[illegible]、正しい生活のたまものである、幸ひ[illegible]を經て出陣の命を受けた暁は、[illegible]つて[illegible]の[illegible]隊員[illegible]に

負けない手柄をたて、山本元帥、[illegible]の後に[illegible]く覺悟である

【宮本武治（花蓮港）】[illegible]部隊長はじめ兵隊さん方の指導によりわれわれの體は日一日と立派になり、どこに出ても恥しからぬ體になつた、[illegible]の時間に部隊長が「[illegible]ならぬ身にはあれども[illegible]は[illegible]の旗の下に死にてん」と云ふ[illegible]を[illegible]まれたが、この[illegible]の心をもつて第一線に出陣したい、先日われわれの如きものでもやがて第一線に出していただけるのだと云ふ事を聞いた時の[illegible]は全く忘れることが出來ない、この部隊長の許で訓練をいただいて[illegible]したち、[illegible]は「お前のその體は既に大君の御ために捧げまつつた體である、なぜ[illegible]したのか」と云つて自分をとがめた、この[illegible]のためにも、自分は第一線に出て米英どもを[illegible]し、大君のためにお

【仲山次郎（高雄州）】この部隊を志願して、[illegible]が行はれた時、はじめ體が弱いと云ふので不合格を命ぜられたので自分は[illegible]を申出た、もしも合格しなければ[illegible]して志願を申出ようと考へてゐたが[illegible]合格出來てこれ以上の喜びはない、今では決して他人に負けないだけの強い體になることが出來た、先日[illegible]した時[illegible]隊に參加してゐた姉婿の戰死を知つた、その時は姉は「自分の夫は國家のために死んだ、お前も立派な訓練を受けて、第一線に出て家名を擧げる[illegible]に」と云つてはげましてくれた

【記者】諸君のその皮膚の色艶と云ひ、盛上つた筋肉と云ひ、これは全く[illegible]部隊長自らの指導[illegible]

敵必殺の鍛錬

[illegible]の[illegible]打つ[illegible]を[illegible]る[illegible]風に[illegible]を[illegible]れて〇〇部隊の〇〇部隊を訪へば[illegible]の[illegible]は[illegible]の[illegible]に[illegible]かれ〇〇中佐の指導の下に高砂特別訓練隊の第〇期〇〇[illegible]は[illegible]の[illegible]で[illegible]して[illegible]が[illegible]けられてゐる

〇〇中佐談　私は指導者として今日迄に[illegible]その[illegible]に[illegible]つたが高砂族の[illegible]な[illegible]は[illegible]の[illegible]に[illegible]み人[illegible]く命令を[illegible]する[illegible]ど内地人と少しの[illegible]もない、訓練終了の暁には立派に高砂[illegible]隊として其の任務を[illegible]うするであらう[illegible]に大いに期待して止まない【寫眞】上、[illegible]下、〇〇中佐の指導に依る[illegible]

生等いま欣然起つ

安んぜよ"不惜身命"

目であり[illegible]の本懐之に過ぎるものはないだけ[illegible]諸君、[illegible]の面目にかけ、家門の名譽にかけ[illegible]て諸君の本領を[illegible]し[illegible]先の[illegible]風を[illegible]し[illegible]得べき道に[illegible]、[illegible]の[illegible]を[illegible]げ、[illegible]を[illegible]つて[illegible]の出陣を[illegible]る[illegible]の行く道は[illegible]のしろしめし給ふ所[illegible]の[illegible]り給ふ所である、第二陣を[illegible]る[illegible]學生[illegible]は本日の出陣學徒の[illegible]たる[illegible]

[illegible]に[illegible]へない所であらう[illegible]の入[illegible]に[illegible]の[illegible]にも[illegible]であり[illegible]なる[illegible]を[illegible]されてゐる、此の[illegible]に於て[illegible]

科學の學徒 として[illegible]を積んで國家の[illegible]に[illegible]し[illegible]を[illegible]へたければならぬ、此の[illegible]は[illegible]に[illegible]で[illegible]如[illegible]片時の[illegible]も許さない所である、國家が今直ちに諸君を召さぬ所以も此の方面に於ける諸君の力に[illegible]の大きいものがあるからで[illegible]時局の[illegible]如何に依つては[illegible]の下る[illegible]にして[illegible]を[illegible]べき[illegible]はない、[illegible]の[illegible]を[illegible]し第二陣の[illegible]へを[illegible]せず[illegible]の[illegible]も安んじて[illegible]に[illegible]る[illegible]を得べく先[illegible]する[illegible]生[illegible]はその[illegible]を天下に[illegible]り得べきものとなるのである、以上本日の[illegible]に[illegible]り[illegible]の一[illegible]を述べて[illegible]行の辭とする

答辭

我等は[illegible]兵なり、[illegible]に[illegible]へ[illegible]りて此[illegible]に[illegible]を[illegible]み[illegible]をなして出陣の途に就かんとす、本日元[illegible]並びに[illegible]兄又此の[illegible]を[illegible]び[illegible]下の[illegible]なる[illegible]辭、在[illegible]代表の[illegible]たる[illegible]の辭をもつて我等が[illegible]に行[illegible]にせらる[illegible]なりと[illegible]ふべく

感激 措く能はざるものあり　昭和十六年十二月八日宣戰の大詔を[illegible]し[illegible]りて皇國の[illegible]は[illegible]米を[illegible]し大東亞の[illegible]を[illegible]き[illegible]の[illegible]に[illegible]く、[illegible]と[illegible]も[illegible]に[illegible]然に[illegible]又不可[illegible]の[illegible]を[illegible]するに至れり、此の秋[illegible]國民[illegible]は日に[illegible]く[illegible]む、我等は此の[illegible]に在りて久しく[illegible]の[illegible]をなす[illegible]に[illegible]へざらん[illegible]の[illegible]を[illegible]と[illegible]らひし[illegible]か正に元帥に[illegible]きアッツに[illegible]への[illegible]已み難かりしなり、[illegible]しもあれ[illegible]の命は下りぬ

我等 互ひに[illegible]を[illegible]ち[illegible]命の[illegible]に[illegible]す[illegible]に[illegible]を[illegible]るべし、[illegible]なすは[illegible]年の[illegible]の[illegible]、[illegible]不足する所なし、我等が[illegible]途の[illegible]に[illegible]つや不惜身命の決意は[illegible]く[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]又[illegible]つて我等と共に[illegible]ふ[illegible]せり[illegible]るるものあらんや、況して[illegible]の[illegible]をもつて[illegible]らん[illegible]が[illegible]天[illegible]地の[illegible]く[illegible]を[illegible]持せん、されば今[illegible]ひの決する所ただ[illegible]を[illegible]るのみ

本分 に[illegible]らざるのみならず[illegible]の[illegible]一に[illegible]へ[illegible]るを得べし、[illegible]よし[illegible]は[illegible]の[illegible]つ防人と[illegible]ると[illegible]も我等八[illegible]と化して天翔の[illegible]も[illegible]く[illegible]の光榮を[illegible]し[illegible]らん[illegible]右決意の一端を述して以て答辭とす

出陣學徒代表　[illegible]　田中[illegible]

[illegible]あるたる[illegible]は[illegible]我が

[illegible] の[illegible]び決[illegible]して此の道を[illegible]らん[illegible]、[illegible]生[illegible]せず、[illegible]の[illegible]文[illegible]として[illegible]するに[illegible]で[illegible]に[illegible]りて[illegible]と共に[illegible]が[illegible]の大任に[illegible]なく[illegible]の本[illegible]に[illegible]るある[illegible]し昭和十四年五月廿二日[illegible]に[illegible]れ[illegible]を[illegible]りし[illegible]、昭和[illegible]の一大[illegible]なりとつつしみ[illegible]、中[illegible]にしてや[illegible]なく[illegible]に身を[illegible]て[illegible]道を[illegible]せん、[illegible]の如きたひとり[illegible]

【矢守勇（[illegible]）】入[illegible]時は何も知らなかつた自分達だが今では何をやつても大丈夫だ、[illegible]かしい手旗信號も[illegible]えた、又[illegible]により[illegible]はこんなに丈夫になつた、軍隊生活にも慣れて、兵隊さんに手をとられ、[illegible]らぬところは[illegible]るまで[illegible]へていただきながら[illegible]を受けてゐる、この[illegible]に[illegible]いるためにも、早く陛下の御楯となつてお國のために[illegible]したい

【大岩清一（[illegible]）】やつてゐること[illegible]てが[illegible]である、[illegible]内[illegible]もはじめは[illegible]かしくて、果して自分に出來るだらうかと[illegible]されてゐたが、[illegible]日[illegible]に[illegible]るうちに次第に[illegible]れて來た、入隊してから[illegible]日目に[illegible]を[illegible]をさせられたが、その時は[illegible]がばたばた[illegible]れた、しかし一月たつてやつた時には、自然に面白い[illegible]うまく出來る、これは全く[illegible]のおかげであると思つた【未完】

陛下の赤子だ

若いぞ闘魂

"二國"凜然たり

"[illegible]たつて[illegible]若いんだ、[illegible]へあつたら何時でも……"と[illegible]の[illegible]を[illegible]つてゐた[illegible]日[illegible]の[illegible]は[illegible]公布された昭和五年以前の[illegible]第二國民兵役該當者の[illegible]にドッと[illegible]の[illegible]を[illegible]げ、この[illegible]以來[illegible]の[illegible]に[illegible]も[illegible]の[illegible]として明れの第一陣に[illegible]の日の來た[illegible]ひに[illegible]れてゐるが、[illegible]部では早くもこれら新入生の[illegible]とともに明日からでも[illegible]に、[illegible]と[illegible]にと[illegible]を[illegible]、四十[illegible]のものも、[illegible]十も、[illegible]も[illegible]も[illegible]、[illegible]に[illegible]も[illegible]と[illegible]をつぶし、夜の[illegible]を[illegible]つて鍛へに鍛へる[illegible]、[illegible]に[illegible]か[illegible]が二つ三つ、併しそれも一時、[illegible]つたらう、五[illegible]を[illegible]した[illegible]にしかと[illegible]を[illegible]しく[illegible]つて何時の日にる[illegible]に[illegible]れてゐる、若い[illegible]米英兵と[illegible]に[illegible]つても[illegible]りの下士官に[illegible]へられた[illegible]、それは米英[illegible]の[illegible]を[illegible]に[illegible]つて[illegible]しい[illegible]の[illegible]、[illegible]の夜[illegible]の[illegible]、[illegible]へ[illegible]げられる[illegible]日本の[illegible]兵士は[illegible]士よ、我らも今に征くぞと[illegible]しい步調で一[illegible]を[illegible]ける【[illegible]】二分會の夜の[illegible]

NTN
東洋ベアリング
大阪・東京・名古屋

聖恩に應へて

食糧增産期す

湧得氏感激語る

【[illegible]】旭八の[illegible]に輝く[illegible]林君（曾文郡下[illegible]庄[illegible]五〇五）比島に於いて[illegible]ゲリラ[illegible]に[illegible]ひダバオに於て[illegible]なる戰死を遂げたもので自宅には父湧得氏（[illegible]）[illegible]兄と弟が居り、[illegible]ひを[illegible]せば湧得氏は語る

[illegible]を[illegible]く[illegible]の手柄も[illegible]てありませんが私[illegible]の武功に[illegible]へ[illegible]增產に[illegible]る[illegible]を[illegible]して居り、[illegible]の[illegible]は二人も[illegible]この[illegible]は打つぞと[illegible]り切つてをり今回の[illegible]に[illegible]して[illegible]に一層努力し聖恩に[illegible]へねばなりません

陸の若鷲に

志願

新竹市林君

【新竹電話】出よ少年兵の[illegible]に[illegible]へて新竹州下の本[illegible]少年は[illegible]こそ來れとそれぞれ[illegible]を[illegible]いでゐるが、新竹市[illegible]町二丁目[illegible]は二十日[illegible]を[illegible]つて[illegible]兵[illegible]に陸軍少年[illegible]兵[illegible]の手續をとつた

安松氏の葬儀

【[illegible]】[illegible]に於て[illegible]した[illegible]安松[illegible]氏の葬儀は十九日午後四時から[illegible]に於て[illegible]多[illegible]の上[illegible]かに[illegible]行はれた、氏は昭和十二年[illegible]組[illegible]として來[illegible]、[illegible]同[illegible]取締役として又[illegible]會[illegible]所、[illegible]の[illegible]として[illegible]界に[illegible]した[illegible]人[illegible]で氏の[illegible]は各方面から[illegible]されてゐる

格安　閑靜　沿道
停留所に便あり
香港 香取旅館
香港九龍香取通九六
電話代表五八九二一一番

戰ふ日々
疲勞消耗を防ぎ、常に明快な頭腦旺盛な體力を確保する　仁丹
工場に　前線に
仁丹

荊妻キミノ儀豫而病氣療養中ノ處二十日午前二時三十分死去致候ニ付此段謹告仕候
追テ告別式ハ二十一日[illegible]ヨリ[illegible]ニ於テ佛式ニテ執行可仕候
昭和十八年十一月二十一日
臺北市[illegible]町三十八番地
夫　小森[illegible]
男　同　靜
男　同　正
親族　中野光男
同　山科榮
友人　原田壽
代　狩野繁元

會葬御禮　村瀬存義

第五回決算公告
（昭和十八年九月三十日現在）
臺灣石炭株式會社
[illegible]

第五回決算公告
（昭和十八年九月三十日現在）
臺陽鑛業株式會社
[illegible]

第五十一期決算公告
（昭和十八年九月三十日現在）
基隆運送株式會社
[illegible]

求住込倉庫番
[illegible]
東京芝浦電氣臺北工場

求炊事婦
詳細面談
臺北市[illegible]町三ノ[illegible]
農業試驗所[illegible]

會葬御禮　要　千枝太郎　要へ　タ

會葬御禮　橋本吉次

會葬御禮　砂田郁郎

妻稔惠儀永ラク病氣療養中ノ處藥石效無ク二十日午後六時十分逝去致シ候間生前ノ御厚誼ヲ拜謝シ御通知ニ代ヘ謹告仕リ候
[illegible]
昭和十八年十一月二十一日
臺北市[illegible]
夫　田中清史
[illegible]　山本眞平
[illegible]　中村八十一
[illegible]　細野浩三

看護婦募集
一、本部病院並ニ佛印方面病院ニ派遣スベキ看護婦ヲ募集ス但シ有資格者ニ限ル
二、給料其ノ他ハ面談ノ上決定ス
三、希望者ハ履歷書ニ通携帶送ニ出頭セラレタシ
出頭シ難キ場合ハ履歷書ニ通、手型寫眞二葉、身分證明書、健康證明書送付セラルベシ
臺灣總督府警務局內
財團法人　博愛會本部

減資異議申出公告
[illegible]
昭和十八年十一月[illegible]
臺灣重工業株式會社

今日の映画
大世界館　台劇　新世界　芳乃館　芳明館　城南映劇　萬華劇場　太平館　第二世界
[illegible]

大江戸を恐怖と戰慄に陷せた謎の大捕物綺譚！
新版　牢獄の花嫁
阪東妻三郎主演
吉川英治原作・稻垣浩演出
廿一日公開　合同興行直營　大世界館

お断り
都合に依り！
本日封切豫定の名畫
「世界に告ぐ」は二十七日封切に愛更延期致しました
臺北市[illegible]
興行直營　大世界館

新竹の映画
新竹劇場　有樂館　[illegible]
基隆の映画
基隆劇場　[illegible]
國際　世界館
宜蘭の映画
昇平座　宜蘭座　羅東座　大和劇場　旭劇場　基隆世界　中央劇場　蘭陽地區
[illegible]

米英打倒

吾々の崇高な使命

少年通信兵に合格の許君

【彰化】東京の仇敵米英必滅の闘魂を燃やして職場から敢然と陸軍少年通信兵を志願、多數應募者の中から見事合格を射止めて晴れらして居る愛國少年がある、彰化市北門四二三許阿榮氏三男許清山君（一九）は去る昭和十六年彰化郡役所に給仕として雇はれたが給仕勤務をかねて間もなく同郡に登用され現在雇員として勤務中の有為な青年で皇國の安危を賭けた千古未曾有の[illegible]決戰に殉せしむべく熱烈たる愛國の至情に燃えて率先陸軍少年通信兵を志願し市内に於ける本島同胞の先陣を承つて此の榮冠を贏ち得たもので採用通知の[illegible]を手にして許君は喜びに頬を輝やかせながら大の如く語つた

「光榮なる決戰下皇國青年として是非第一線で米英撃滅をやつつけたいとの念願から志願した所お蔭さまで合格してこんな嬉しいことはありません、米英は我々東亞十億同胞の仇敵であり之を撃滅するのは吾々青年に與へられた崇高な任務でこの聖戰に參加し得るのは私一身は元より一家一門の光榮です、入營の上は一生懸命勉強して皇國のため十分御奉公したい覺悟であります」

宜蘭大麻頒布始奉告祭並に頒布式

【宜蘭】宜蘭市の大麻及曆頒布始奉告祭並に頒布式は十九日午前十時から市公會堂に明知市長、清水助役、木村署長、各課長並に各區會長區民代表等四十餘名參列の下に宜蘭神社社司により嚴肅に執り行はれた

工業振興研究會

臺電彰化支店增產報國

【彰化】臺電彰化支店工業振興研究會の第七回研究發表會は十八日午後一時より支店會議室にて恩田支店長以下會員十餘名列席の下に開催、國民儀禮あつて恩田支店長は彰化地方民間團體並に[illegible]を提唱して其の重點に就き説明の後 △テルミニーム工業に就て[illegible] △[illegible]油工業の[illegible]等に就き夫々貴重な研究發表あつたが就中酒井書記補の研究に係る[illegible]は時局柄資源の[illegible]として多大な注目をひいた、即ち酒井氏は本島に於ける米穀炊[illegible]るもの少からず且つ從來の火力[illegible]の關係で[illegible]成果を擧げ得ないのを遺憾に思ひ[illegible]研究[illegible]したもので之に依れば二百斤の[illegible]は約五六分間で完全に[illegible]される由で試驗の結果効果極めて良好であると云はれて居り完成の曉は本島米[illegible]に貢獻する所多大なるものがあるものと期待されて居る

高雄野生料理試食會

【高雄】從來山野に埋れて顧みられなかつた野生植物も利用如何によつては貴重なる食糧資源となるので之等野草の利用法を一般に周知せしめ以て決戰下食糧確保に[illegible]

戰鬪配置につけ

羅東皇奉連絡會議

【羅東】皇奉羅東街分會では戰時[illegible]を期するため常會[illegible]部落會[illegible]及び奉公委員七十餘名を招き連絡會議を[illegible]開催し[illegible]戰時國民生活について[illegible]分會長の挨拶それより協議事項に移り[illegible]國民としての[illegible]事項および[illegible]生活者としての守るべき事項を協議決定し同五時盛況裡に終了散會した

することに決定した

經濟視察官歸嘉

【嘉義電話】嘉義商工會議所では先に全島主要都市に派遣した經濟視察官は豫定通りの視察を終へて歸嘉したので二十日午後三時から同所會議室に於て視察狀況報告會を開催する

非常食

干飯を準備せよ

食糧の重要を強調　屏東

【屏東】皇奉屏東市支會では決戰下最も緊要なる國民食糧の重要性に鑑み新嘗祭の二十三日を中心として前後一週間全市民特に消費者に對し一層その重要の徹底を期り新穀感謝並に奉公精神を振起せしむべく左の行事を行ふ

一、新穀感謝祭の執行

1日時　十一月二十三日午後二時三十分

2會場　阿猴神社

二、新穀感謝の生活具現

1實踐事項

（イ）食事前後に感謝すること

（ロ）神棚に新穀を供へること

（ハ）非常食として乾飯又は炒米一週間分を準備すること

（ニ）食物の完全咀嚼を勵行すること

（ホ）食糧節約利用及食糧[illegible]並に之に關する[illegible]

（ヘ）保健食物の新工夫をなすこと

（ト）野草其の他未利用食糧資源の活用

2周知方法

イ、一般家庭に對しては回覽板により徹底を期する

ロ、各學校生徒兒童に對しては學校長指導教師より訓話すること

ハ、各映畫常設館に於て趣旨の徹底を行ふこと

皇奉羅東支會

第四回參與委員會

【羅東】皇奉羅東郡支會では徴兵制の施行に順應し郡民擧つて徴兵たらしめんため第四回參與委員會を十九日午前十時同郡役所會議室で開催、參與四十餘名出席し先づ郡守の挨拶それより支會長の挨拶それより協議事項に移り徴兵[illegible]上げるべき施策として各委員は[illegible]を提出し[illegible]具體的方策[illegible]年度の事業[illegible]協議[illegible]

南方向け馬の增產

臺東で管理品評會開催

【臺東】臺東郡では南方共榮圏へ向け送り出す軍馬の大量增產を圖る爲、郡下馬匹の飛躍的發展を期し郡下における三歳以上の馬匹を全部參加せしめて臺東部產馬畜產主催で第一回馬匹管理品評會を開催することになつたが會期は十一月二十日より十九年一月二十日迄の二箇月間として審査は第一回が十二月二十日、第二回が一月二十日の二回、愛護狀態、手入れ及健康、體型等について嚴密に行ひその結果、一等一點、二等二點、三等三點の入賞馬を決定し[illegible]を授與し[illegible]飼養者に對し飼養全般に亘り[illegible]指導をなして飼養管理の向上に資することとなつてゐる

增產へ・馬耕競技會

女子組も參加　大溪街

【大溪】新竹州では生產擴充食糧增產には土壤に對する科學的知識をうゑつけ馬耕の普及を圖る爲十八日午前十時より大溪街農業馬耕競技會を大溪街附近に於て北三部馬耕技術員、池より坂井技師、佐藤中[illegible]下各關係官立會の下に男子十五組女子三組參加いづれも眞劍な技を競ひ左記の通りの成績を以つて盛會裡に終了引續き表彰授與式を擧行した

一等賞　成福部許[illegible]

二等賞　中[illegible]部[illegible]、同大[illegible]部[illegible]

三等賞　大溪部[illegible]、同游文[illegible]、同江[illegible]（以下略）【寫眞は馬耕競技會】

皇奉山本事務總長

新莊郡で講演

決戰下における職員の識見向上、指導能力の强化を圖るため秋山郡守の肝煎で計畫された、新莊郡民指導者講習會は毎土曜に開催、第一回は既報の通り總督府より森田[illegible]長を講師に招聘、講習員百三十餘名に對し懇々二時間餘に亘る熱辯を揮ひ一同に非常なる感銘を與へたが其の第二回は二十七日午後二時より街公會堂に於て皇民奉公會山本事務總長を講師として開催

歌唱奉公隊も參加

彰化の新穀感謝行事

【彰化】皇奉彰化市支會では許然なる決戰下國民食糧の重要性が愈々加重されて來たのに鑑み全市民特に消費者に對し一層皇恩の徹底を圖りて奉公精神を振起すべく來る二十三日午後二時から彰化神社で新穀感謝祭を執行して神前に感謝祈願の誠を捧げると共に左の如き感謝行事を實施する

一、新穀感謝、增產歌唱奉公隊來錦歌唱大會、二十三日午後七時半於公園廣場

二、工場食堂家庭に於ては食前食後に感謝する風を作り新穀感謝貯金を勵行し物の無駄排除、廢物の利用、榮養との新工夫や未利用食糧資源の活用等に努むること

三、學校各國團體に於ては食糧の消費節約、生活刷新、食糧增產活動を喚起し新穀感謝の念の徹底を期すること

四、新穀感謝の具體的表示として夫々の職域又は分野に應じ[illegible]貯蓄運動を展開すること

宜蘭新穀感謝祭

【宜蘭】縣社宜蘭神社では十一月二十三日午前九時から新穀祭を執行するが州から幣帛供進使として宮田總務部長が平野、古屋兩課長を伴ひ參向地元からは市長郡守以下官民代表參列新穀に感謝するが終つて午前十一時から宜蘭郡の[illegible]新穀感謝祭が同社大前に執行される

新穀感謝祭

羅東で青年劇公演

【羅東】羅東郡では新穀感謝祭を廿三日午前十時羅東神社で官民多數參列の下に盛大に執行するが奉祝行事として同日午後一時から羅東座に於て青年劇團の[illegible]及び紙芝居等を催す

新穀感謝祭

皇奉臺中支部主催

【臺中】皇奉臺中州支部では皇奉臺中市支會と共同主催にて來る二十三日午後一時三十分、臺中神社に於て新穀感謝祭典を盛大に執行することとなつた

戰爭には必ず勝つ

援護を辭退飴賣お婆さん

【臺東】一人息子の働き手を戰線に送つた後寄る年波もものかはと[illegible]援護の[illegible]にも[illegible]らず、[illegible]一切の援助の手を[illegible]しく[illegible]五年の間[illegible]の生活を[illegible]の[illegible]へ[illegible]日本の母[illegible]これは四年何箇月前に[illegible]召を拜して[illegible]目下南方戰線に活躍中の臺東街新町十番地[illegible]の母[illegible]ハサさん（六〇）である。ハサさんは[illegible]を[illegible]して[illegible]の生活に飛び込んで行き飴賣[illegible]を[illegible]られた[illegible]「[illegible]お國への御奉公」と[illegible]

[illegible]ハサさんは一日[illegible]一日[illegible]はありません、[illegible]必ず勝つと[illegible]ます【寫眞はハサさん】

共同苗代を設置

北斗郡米增產に萬全

【北斗】現下の重大時局に鑑み北斗郡では昭和十九年第一期作米穀增產對策として去る十八日午前十時より郡下各街庄[illegible]協議會を開催し[illegible]左記事項に就き協議を遂げた

一、共同苗代設置の件

目的＝適正に於ける苗代期間の[illegible]もの[illegible]苗代期間[illegible]

二、昭和十九年第一期作米增產目的周知徹底の件

前年の實狀に鑑し、[illegible]

三、作付面積確保の件

現下の米穀需給に[illegible]

四、稻作[illegible]管理に關する件

本島二期作水田[illegible]

高等法院長來高

【高雄電話】[illegible]高等法院長[illegible]

早くも廿五萬圓

どしく大口申込續く　花蓮港

【花蓮港電話】西南太平洋の戰果に應へて五萬花蓮港市民は[illegible]貯金部[illegible]に押しかけ押すなくの盛況を呈して[illegible]萬圓、[illegible]三萬九百圓、[illegible]二十五萬圓を突破、[illegible]小川商氏の二萬圓を[illegible]と相並んで一萬圓口を申込み一口一千圓に一家族八人八千圓を申込んだ山田[illegible]氏の[illegible]二千圓、[illegible]五百圓とどしく申込んで今や花蓮港市中は[illegible]の坩堝と化してゐる

ブ島戰果感謝講演

大溪郡警察課主催

【大溪】新竹州大溪郡警察課では十八日午後一時より保甲會議所に於て部下職員、[illegible]八十八名を集めブーゲンビル沖大戰果感謝記念講演會を開催[illegible]『大東亞戰爭の[illegible]』[illegible]『大戰果』[illegible]に應へて速かに生活を戰時化せよ[illegible]

鶴嘴戰士の體育會

蕃歌鑛業奉公會で

【[illegible]】蕃歌鑛業奉公會では二十一日午後一時より[illegible]勤續三年以上勤勉者に對し表彰式を擧行の後[illegible]戰士の[illegible]會を催する[illegible]

南街往來

花蓮港

△[illegible]十五日[illegible]△[illegible]

玉里

△[illegible]△[illegible]

軍事知識

イタリア降伏の原因

三思すべし他山の石

本年七月二十五日[illegible]イタリアの[illegible]ソリニ首相の退陣はどうして起つたかイタリアの内包した弱點と[illegible]米英の[illegible]を[illegible]つて決戰下我が國民に他山の石として注意しよう――

一九四一年六月ドイツ軍がフランス全土を席捲しいまはフランスの降伏も時日の問題となつたときイタリアは突如として參戰した、當時イタリアは未だ戰備十分とはいへなかつたのである[illegible]の[illegible]を得ようとする[illegible]に[illegible]が[illegible]のである

イタリアはムッソリニのファシスト[illegible]下

一、イタリア國軍とファシスト黨員の關係

二、法王廳とファシスト黨の關係

三、ファシスト黨内の異分子の暗躍

四、イタリア民心の[illegible]

[illegible]二十二年間國力の進展に目覺ましい發展を示しながら國内には大きな缺點があつた

法王廳は　イタリア國内にある一國として多大の[illegible]をもち法王廳のローマカトリック[illegible]と[illegible]のファッシズムとは近來[illegible]されたとはいへ[illegible]

[illegible]ローマ進軍以來[illegible]のファシスト黨に[illegible]

[illegible]共產主義[illegible]

國民の戰[illegible]

椰子

(103)

海野十三作

村上松次郎繪

紅丸號の運命（五）

[illegible]帆村は、マーガレットと呼ぶ同行者を先に歩かせ、彼はその後からゆつくりついていつた。[illegible]隊[illegible]は、[illegible]の上から彼等の歩いていく方に注目ける。

さて、ふしぎなのはマーガレットといふ婦人である。彼女は一體何者であらうか。いつさういふ婦人が彼の手近にゐたのであらうか、そしてなぜ彼と行を共にしたのであらうか。まことに不思議なことであつたが、これには深い仔細がある。

「敬禮」

始めから案内役をしてゐた隊長が號令をかけた。

帆村はきつとなつて、目を奥に運ずる扉に向けた。

扉が開いて、白い服に、ものものしい肩章をつけた艦隊の中年の士官を先登に、一隊の士官がぞろぞろと出て來た。そして正面の席についた。

「やあ、あんたは誰方ですかね」

と、帆村が先に口を開いた。

正面の中年の士官が若い顔をして、[illegible]の[illegible]らしいのをふりかへつた。

その[illegible]は[illegible]く頷いて、用紙を[illegible]げた。

「君たち二名の[illegible]に[illegible]する[illegible]を[illegible]みる」

「[illegible]ではありませんな」

と、帆村の方を上眼で見た。

「[illegible]ではありませんな。もつとも[illegible]に[illegible]する[illegible]の方法を、この若い士官は知らないやうに思はれますがね」

「[illegible]の一號艇つとれ。必要以外の[illegible]を許さんぞ」

火喰鳥のやうに痩せて首の長い[illegible]の艦隊長が、[illegible]をとんと叩いて頷した。

「では、どうで用件をお早く」

と帆村は催促した。艦隊[illegible]が、また目を三角にする。

「では訊くが、[illegible]一號及び二號は、何故に本艦の上を飛行したか察するところ、本艦に對しある[illegible]の[illegible]行為、たへば[illegible]等を[illegible]艦へ行ふ意向があつたと思ふ。正直に申立ていゝ」

帆村はふきだした。[illegible]のいふことがあまりに大時代であつたからである。

[illegible]帆村とマーガレットは、この浮[illegible]の甲板を[illegible]って、[illegible]に[illegible]ずる扉口のところまで來た。

「下りるんだ」

と、[illegible]の隊長がわざと威嚴を作つた聲で、後から叫んだ。

「分つてゐるよ」

と帆村は[illegible]をゆすぶつた。

「マーガレット、階段を下りるんだよ」

帆村は[illegible]から聲をかけた。

階段を下りていくと、下には立派な通路があり、その左右には部屋がずらりと並んでゐた。

「どこへ連れこむつもりか」

と、帆村は後の隊長の方に振りかへつた。

「隊長が會はれる。いや、司令官がおきまりをお[illegible]べになるかもしれない」

やがて帆村とマーガレットは、[illegible]の部屋へ案内された。二人は戸口に近い壁の前に立たされ、その

ラジオ

○六・四〇　國民（臺北）　―今週の指導―

第二放送

山本泰一

○七・〇〇　時報（東京）土の聲をきく（大阪）…[illegible]、ヴアイオリンと管絃樂（日本放送）（東京）スペイン交響曲（ラロ作曲）[illegible]

○八・〇〇　時報（東京）

○八・五〇　報道（東京）

○九・〇〇　時報（東京）少國民音樂（東京）…[illegible]

○九・四五　戰時保育講座の時間…[illegible]

○一〇・〇〇　週間ニュース（東京）

○一一・四五　[illegible]

○〇・〇〇　時報（東京）報道（東京）

○一・〇〇　時報（東京）[illegible]

○二・四五　[illegible]（東京）

○三・〇〇　時報（東京）報道（東京）

○五・〇〇　時報（東京）報道（東京）

○六・〇〇　時報（東京）少國民の時間（東京）[illegible]

○六・二〇　[illegible]

○六・二五　[illegible]

○七・〇〇　時報（東京）報道（東京）

[illegible]マンドリン合奏[illegible]

第二放送

（大阪）

○九・〇〇　時報（東京）報道（東京）

○一〇・〇〇　時報（東京）[illegible]

○六・〇〇　時報（東京）少國民の時間

○六・一五　[illegible]

○六・二〇　ヴアイオリン[illegible]

○七・四〇　[illegible]

○八・〇〇　[illegible]

○八・二〇　[illegible]

○九・〇〇　北曲「[illegible]」[illegible]

高雄學生寮新設

南方雄飛の商業戰士へ贈りもの

【高雄】[illegible]南方共榮圏へ羽ばたく産業戰士の[illegible]を抱く[illegible]高雄商業學校[illegible]

[illegible]二十四萬圓[illegible]

坂口前知事寄附

【高雄電話】坂口前高雄州知事は今回高雄に臨んで金一封を市社會事業に寄附した

戰果に昂る獻金

【臺南】第五次ブーゲンビル島沖航空戰の輝しき大戰果に感激し[illegible]左の通りである

[illegible]

學徒一日淨汗奉仕

彰化商業奉公隊二百名

【彰化】彰化商業奉公隊二百名は十八日午前九時から大[illegible]を[illegible]して一日の淨汗奉仕を行つた[illegible]

出征の留守を護つて

女手一つて增產

屏東上田のし子さんの敢鬪

【屏東】出征中の夫に代つて[illegible]を作業服に日傘をヘルメットにかへて自家を守り一所懸命の[illegible]屏東市内の人々を感激させてゐる出征軍人留守宅の奮鬪談――それは屏東市若松町三ノ六七番地上田[illegible]氏の妻のし子さん（二三）は今年七月〇〇夫の出征後女だからと『留守は立派に守ります』と[illegible]

日本火災海上保險

戰爭（火災・損害）保險　取扱

戰爭死亡傷害保險

本社　東京・日本口

支部　臺北市[illegible]二丁目三

曆の本質とその改良
テレビジョン
無線電信電話實驗法
水晶片の原理とその應用
寫眞電送
御民吾と日本の傳統
國民合唱
日本放送出版協會

臺日案内

石堂[illegible]

タイ[illegible]

事務[illegible]

洋裁[illegible]

洋裁[illegible]

女中さん入用

炊事婦入用

女子[illegible]

女子[illegible]

女子[illegible]

見習[illegible]

校正[illegible]

賣家[illegible]

住宅[illegible]

賣家[illegible]

支那[illegible]

洋裁[illegible]

カメラ[illegible]

自由[illegible]

ピアノ、オルガン調律[illegible]

轉宅[illegible]

引越[illegible]

引越[illegible]

のせ[illegible]

八里[illegible]

メガネ專門[illegible]

斷食[illegible]

結婚[illegible]

衣類[illegible]

結婚[illegible]

豆炭[illegible]

喘息[illegible]

産業婦人に
もつとビタミンBを！

疲勞素（乳酸）を排除し
筋骨の成長を促進し抗病
力も著しく增强する……

新しく職場に就いた御婦人方にとつてビタミンBは不可缺の榮養素ですが、わかもとはビタミンB₁ばかりでくB₂に協力して體力を增進し胃腸を强化するB₂や消化酵素を豐富に含んで居りますから毎日缺かせぬ強身劑です

胃弱に
便秘に
浮腫に

ビタミンB₂倍增に成功！

わかもと錠劑

一日二十五日量　一圓六十錢

わかもと本社

兵器化機械の諸事算計るゆらあ―ナーメ

タイガー計算器

タイガー計算器販賣株式會社　臺灣出張所（臺北市本町一ノ一〇）電2335・2888

（本社　東京市京橋區銀座西二ノ一）

當籤債券廣告

11月抽籤　第百回以上

支拂開始期　12月1日

支拂場所　當行本支店、出張所、代理店及指定郵便局

昭和18年11月　日本勸業銀行

[illegible]

國報康健

戰時だ働かう

冷症・神經痛・ロイマチス
各種皮膚病・温泉風呂に

ミネラール

臺北州賣藥製造工業組合

齒科　澤熊醫院

（消防署前通り）

臺北市千歲町三ノ四九　電話七六八一番

齒科　高嶺醫院

臺北市大和町三（明石町角）

電話六四七四番